

基本政策 1 安全な生活環境で過ごせる

【基本政策の方向性】

局地的大雨等が増加傾向にあり、河川の増水などの災害リスクが危惧されていることから、市民が安全で安心して暮らすことができるよう、総合的な治水対策を実施し、災害に強い安全な生活環境で過ごせる“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

「浸水被害の軽減」

局地的な大雨の頻発等に対して、流域対策と浸水対策を推進することにより、浸水被害の軽減を図ります。

【数値目標】	現状値	目標値
床上・床下浸水戸数の軽減 (R 元台風 19 号と同一降雨量を前提)	394 戸 (H27～R1 年度の累計)	0 戸 (R7)

基本施策

1－1 流域対策の推進

河川、水路、道路などのインフラ整備によるまちづくりとの連動を強化し、そのインフラを活用した減災対策を進めるなど、流域全体における対策を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
浸透施設整備	－	延長 1.4km 以上 (R7)

【主な取組】 流出抑制施設の整備

雨水貯留浸透施設¹の設置、道路側溝による雨水浸透の推進、農地や緑地の保水、遊水機能の保持など、流出抑制施設の整備を進め、雨水流出量の抑制を図ります。

【KSF】	現状値	目標値
開発事業者への宅内浸透施設の設置要請	実施	継続 (R7)

¹ 降雨時に、下流域への雨水の流出を抑制させるため、各住宅の敷地内や道路側溝等に雨水を一時的に貯留・浸透させる施設（浸透トレンチ等）

1-2 浸水対策の推進

都市型水害の発生に対応し、治水安全度の向上を図るため、排水施設などの整備、改善を総合的かつ計画的に進めるなど浸水対策を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
計画的な施設整備の実施	－ ⇒	施設整備計画の策定（R3） 施設整備計画の運用（R4～）

【主な取組】雨水処理施設の整備

更新時期を迎える排水施設の更新、河川・水路の改修などの整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
必要性や優先順位を踏まえた計画的な更新計画の策定	－ ⇒	計画に基づく施設整備の実施（R7）

関連する SDG s ゴール



災害に強い都市基盤により、誰もが生活しやすく、活動しやすい環境を整えます。

関連ターゲット（9-1）



住み続けられるまちとなるよう安全安心な生活基盤づくりを推進していきます。

関連ターゲット（11-3、11-5、11-b）



気候変動の影響から局地的大雨等に備えた基盤整備による対応を着実に進めます。

関連ターゲット（13-1）

関連計画等

富士見市洪水ハザードマップ（平成 30 年度）

富士見市内水ハザードマップ（平成 30 年度）

関連部署

建設部 道路治水課